

8月 5-11 日

[詩編 70-72 編](#)

[59 番の歌](#)と祈り | 開会の言葉 (1分) 有田 悟 | 長谷川瑛一

## 神の言葉の宝

### 1. 神の力について「次の世代」に語る (10分) 田中 克彦

ダビデは若い時にエホバに守ってもらった。(詩 71:5 主権者である主エホバ、あなたは私の希望の源。私は若い時からあなたを信頼してきました(\*私が若い時から、あなたは私の確信の源です)。塔 99 9/1 18 ページ 17 節 17 サタンのわなを避けるには、絶えず警戒していなければなりません。時には、非常な勇気も要ります。実際、同年代の仲間との関係だけでなく、世の人々全体との関係も悪くなることもあるかもしれません。詩編作者ダビデは、こう祈りました。「主権者なる主エホバよ、あなたはわたしの望み、若い時からのわたしの確信.....です。神よ、あなたはわたしの若い時からわたしを教えてくださいました。わたしは今に至るまであなたのくすしいみ業について告げ知らせています」。(詩編 71:5, 17) \*ダビデは、勇気のある人として知られています。しかし、いつそれを身につけたのでしょうか。若者のときです。ダビデは、ゴリアテとの有名な対決以前にも、父の羊の群れを守る点で際立った勇気を示していました。ライオンと熊を殺したのです。(サムエル第一 17:34-37) それでもダビデは、自分のどんな勇敢な行動についても、一切の誉れをエホバに帰し、エホバのことを「若い時からのわたしの確信」と呼びました。ダビデにはエホバに頼る能力があったので、直面したどんな試練にも耐えることができたのです。あなたも、エホバに頼れば、「世を征服する」ための勇気と強さが与えられる、ということが分かるでしょう。—ヨハネ第一 5:4。)

ダビデは年を取ってからもエホバの支えを感じた。(詩 71:9 老齢の時に私を捨てないでください。衰えていく時に見捨てないでください。目 04 10/8 23 ページ 3 節 詩編作者は次のように祈りました。「老齢の時にわたしを見放さないでください。わたしの力がまさに衰えてゆくときに、わたしを捨てないでください」。(詩編 71:9) 神の忠実な僕たちが自分は年老いて役立たずになっていると感じるとしても、神は彼らを『見放し』たりはされません。詩編作者はエホバに見捨てられたと感じていたのではなく、年を取るにつれて自分の造り主にいつそう依り頼む必要性を認めていたのです。エホバは、そのような忠節さにこたえて、生涯を通じて支えをお与えになります。(詩編 18:25) そのような支えが仲間のクリスチャンを通して与えられることも珍しくありません)

ダビデは自分が経験したことを話して若い人を励ました。(詩 71:17, 18 神よ、あなたは私が若い時から教えてくださいました。私は今までずっとあなたの素晴らしい偉業を知らせてきました。18 神よ、私が年を取って白髪になっても見捨てないでください。私に語らせてください。あなたの力について次の世代に、あなたの力強さについて生まれてくる人全てに。塔 14 1/15 23 ページ 4-5 節 4 成人して数十年を経てきた方であれば、「まだ体力と気力がある今、どのような生き方をしたらよいのだろう」と自問するのは大切なことです。経験を積んだクリスチャンとして、あなたには他の人になく機会が開かれています。エホバから学んだ事柄を若い人たちに伝えることができます。神に仕える中で経験した事柄を語って、他の人を強めることができます。ダビデ王はそうする機会を祈

り求めました。こう書いています。「神よ、あなたはわたしの若い時からわたしを教えてくださいました。……そして、神よ、老齢と白髪に至るまでもわたしを捨てないでください。後の世代にあなたのみ腕について、来たるべき者たちすべてにあなたの力強さについてわたしが語るまで」。—詩 71:17, 18。)



考えてみよう 「会衆には長年エホバに仕えてきた兄弟姉妹がいる。家族の崇拝に誰かを呼んでインタビューできるだろうか」。

## 2. 宝石を探し出す (10分) 田中 慶一

詩 72:8 その日、エホバはアブラムと契約を結び、こう言った。「私はあなたの子孫(d\*種)に、エジプトの川から大河ユーフラテスまでの土地を与えよう。

創世記 15 章 18 節でエホバがアブラハムに約束した事は、ソロモン王の治世中にどのように実現したか。(洞-2 1043) イスラエルに割り当てられた領地の境界 神はアブラハムに対する言葉の中で、「エジプトの川から、かの大川、ユーフラテス川まで」の地をアブラハムの胤に与えるという契約をされました(創 15:18) この約束はイスラエル国民にも繰り返して述べられました。(出 23:31; 申 1:7, 8; 11:24; ヨシュ 1:4) 歴代第一 5 章 9 節は、ダビデの治世に先立つ時期に、ルベンの子孫のある人々が自分たちの住む所を「ユーフラテス川のほとりで荒野に入るところにまで」広げたと述べています(代一 5:9 それどころか彼は、東は、ユーフラテス川のほとりで荒野に入るところにまで住んだ…) しかし、「ギレアデの東」を進んだ場合(代一 5:9 また、東はユーフラテス川に至る荒野の入り口までの地域に住んだ。ギレアデ地方で家畜が増えたからだ、10 サウルの時代、彼らはハグル人と戦って打ち破り、ギレアデの東の地域一帯の天幕に住んだ)、ユーフラテス川は約 800 ㍿の遠方にありますから、これは単にルベン人が領地をギレアデの東、つまりシリア砂漠の端にまで広げたという意味なのかもしれません。その砂漠はユーフラテス川まで続いています。(改標は、「ユーフラテス[川]のこちら側の砂漠の入口まで」と読んでおり、エルサレム聖書は、「ユーフラテス川で終わる砂漠の始まる所まで」と読んでいます。) したがって、ダビデとソロモンの治世中にイスラエルの領土の境界がツォバのアラム人の王国を包含するまでに広がり、こうしてユーフラテスの、明らかにシリア北部を横断する部分の川岸に達した時、エホバの約束は初めて全面的に実現したと思われます。(サム 二 8:3; 王一 4:21; 代一 18:3-8; 代二 9:26) この川はひとときわ目立っているのです、しばしば単に「川」と呼ばれました—ヨシュ 24:2, 15; 詩 72:8。 (聖書が違う箇所の記事で矛盾している訳でない証明)

今週の範囲からどんな宝石を見つけたか。最近の講演で詩 72:7 や 16 が引用され、将来実り豊かな素晴らしい時代を楽しめることを学んだ。このように公開講演から宣教で聖句をどのように活用できるかを学べるので、私達はこれからも講演を注意深く聞き、益を受けていきたいと思う。

### 3. 聖書朗読 (4分) 詩 71:1-24 (教励 第5課) 阿部 直生

## 野外奉仕に励む

### 4. 会話を始める 田中 弘子 愛込 4-5 柴田 まり子

(3分) 家から家で。相手の口調がだんだん攻撃的になってきたので、穏やかに会話を終わらせる。(愛込 レッスン4 ポイント5)

### 5. 再び話し合う 布川 志津 愛込 8-4 枝並 あや子

(4分) 日常生活で。聖書を学ぶことをためらっている親族と再び会話する。(愛込 レッスン8 ポイント4)

### 6. 信じていることを説明する 長谷川 貴史

(5分) 話。イ質 49 主題: エホバの証人が教理上の見解を変更することがあるのはなぜですか。(教励 第17課)

## クリスチャンとして生活する

### 76 番の歌

### 7. 楽しい家族の崇拝にするために (15分) 討議。 吉田 忍



家族の崇拝は、子供たちが「エホバが望む指導と助言」を受けるのにとっても大切な時間です。(エフェ 6:4) 聖書を学ぶことには努力が必要ですが、子供たちの心の中に学ぶ意欲が育っていくにつれて、家族の崇拝は楽しい時間になることでしょう。(ヨハ 6:27。ペテ 2:2 神の言葉にある、不純物のない(\*純粋な)乳を、生まれて間もない子供のように強く求める気持ちを育んでください。その乳によって成長し、救われるためです) 「家族の崇拝のアイデア」という囲みには、家族の崇拝を楽しくてためになるものとするために役立つアイデアが載せられています。囲みを読んで、次の質問について考えてみましょう。

・この中でやってみたいと思ったものがありますか。

・ここに挙げられているもの以外で、やってみてよかったことがありますか。（ご意思/目的↓）

- ①自分たちが興味あるテーマでも特定の人を霊的に援助するなど**宣教が関係すると効果性や喜び増す**、  
②塔研究や聖書研究の**復習(短い要約の訓練)**、③**スキル蓄積の方法**や**霊的生活習慣の改善を検討**

## 家族の崇拜のアイデア

### 聖書

- その週の聖書通読の範囲をオーディオ版で聞く。または、家族で順番に声に出して読む。登場人物ごとに役割を決めてもよい。
- 親が週ごとの聖書通読の範囲から質問を準備する。各自 1 つの質問を選んで調査し、分かったことを発表する。
- 疑問に思っていることや特定の問題や状況を取り上げ、「[クリスチャンのための聖句ガイド](#)」を使って当てはまる聖書の原則を調べる。
- 聖書中の記述を演じる。
- 聖句をフラッシュカードに書いて、毎週 1 つ覚える。聖句は「愛を込めて弟子を育てる」の冊子の[付録 A](#)から選ぶこともできる。時々前のカードを使って、覚えているか確認する。
- 「[いつまでも幸せに暮らせます](#)」の本を学ぶ。
- jw.org の「聖書の教え」のタブにある「[聖書 Q&A](#)」や「[聖句の解説](#)」から選んだ記事を基にプレゼンテーションする。

### 集会

- 集会の予習をする。
- コメントの準備と練習をする。時間を計ってみる。
- 賛美の歌の練習をする。
- 次の集会の前後にほかの人にどんな気遣いの言葉を掛けられるかを話し合い練習する
- 準備した割り当てを家族に聞いてもらう。

### 伝道

- 家から家の伝道の準備をする。
- 再訪問の準備をする。
- 毎日の生活で会う人に、どんなふうに話し掛けられるかを考えて練習する。
- 記念式の時期や学校や仕事が休みの時期に普段より多く伝道するための具体的な目標を立てる。

### 家族に必要なこと

- 中立、いじめ、デート、祝祭日など、問題になりそうな状況を想定し、どのように対応したらよいかを考えて練習する。
- 親子の立場を入れ替えてロールプレーする。子供があるテーマについて調査し、子供役の親と話し合う。

### ほかにできること

- JW Broadcasting®を視聴して話し合う。



- [jw.org](http://jw.org) の記事を読んだり動画を視聴したりして話し合う。
- [jw.org](http://jw.org) の「聖書の教え」のタブの「[若い人](#)」や「[子ども](#)」にあるコンテンツを活用する
- 大会のプログラムを復習する。
- 創造物を観察したり調べたりして、エホバについて分かることを話し合う。
- 時々、家族の崇拝に兄弟姉妹を呼んでインタビューする。
- クリスマスとしての目標を立て、どのように達成できるかを話し合う。
- 模型や地図や図表をみんなで一緒に作る。

「家族の崇拝を充実させる」の[動画を再生する](#)。次の質問をする。

・夫婦で行う家族の崇拝を楽しくするために、夫にはどんなことができますか。妻の気持ちを大切に  
して、ちょっと工夫して二人ともが興味を持てることに取り組んだ。いろいろ変化を付ける  
ことで、家族の崇拝はもっと面白く、本当にためになる楽しいものになった。

(人生には変化が付き物。変化に合わせるのは何時も簡単という訳ではない。家族として、エホバとエホバの望むことを一番にするよう努力してきた。でもまた変化の時が来た。妻と二人で学ぶのはちょっと気まずい感じがした。ただ私が質問を読み上げ、妻が答える。それだけ。時間が経つにつれてどんどんつまらなく感じるようになって行き、しまいにはやらなくなってしまった。変化に上手く順応するには大切なことを見つめ直す必要がある。考えてみると妻は本当に聖書を深く学ぶ人。どうすれば家族の崇拝が私達二人にとって楽しくなるのだろうか？私が何とかしなければいけない。忠実な奴隷は夫に妻と聖書を学ぶように勧めてきた。ペテロ 3：7 (同じように、夫の皆さん、知識に基づいて妻と暮らしてください。女性はより繊細な器ですから、妻を大切にしましょう。妻たちも皆さんと一緒に、命という惜しみない恵みを受けるのです。妻を大切にすれば、祈りが妨げられることはないでしょう。)をじっくり考えた。アブラハムとサラのことを思い出した。アブラハムにもサラの気持ちをもっと分かってあげないといけない時があった。エホバからこう言われた。「彼女の願いを聞き入れなさい。」私は妻の話をきちんと聞いてきたのだろうか？私たちは包み隠さず気持ちを伝え合う必要があった。アブラハムとサラのように。妻の気持ちを大事にしたいと思っていることを伝え、こう言った。「ちょっと工夫して二人ともが興味を持てることに取り組んだら、家族の崇拝はもっと楽しくなるのではないかなー？」新しい家族の崇拝の始まり。家族の崇拝を心から楽しめるようになった。夫婦にとって一週間の中でも特に大切な時間。いろいろ変化を付けることで、家族の崇拝はもっと面白く、本当にためになる楽しいものになっている。確かに変化に合わせていくのは簡単ではない。でも変化はチャンスでもある。夫婦の絆が前よりもっと強くなった。エホバとの絆も。)

## 8. 会衆の聖書研究 (30分) 徹 13 章 17-24 節 滝 秀貞 朗読: 有川 聖七

閉会の言葉 (3分) | [123 番の歌](#)と祈り 竹林 直毅

^ ([詩 70:0-72:20](#)) 指揮者へ。ダビデによる。思い出すために。70 神よ、私を救ってください。エホバ、急いで助けてください。2 私の命を奪おうとする人たちが、恥をかいて面目を失いますように。私の災難を喜ぶ人たちが、屈辱のうちに退却しますように。3 「いい気味だ！」と言う人たちが、恥をかいて引き返しますように。4 あなたに導きを求める人たちが、あなたのことで喜び、歓喜しますように。あなたによる救いを切望する人たちが絶えず言いますように。「神が